琉球大学学術リポジトリ

《社会科》深い学びを実現するための思考力の育成：社会的な見方・考え方を深めることを通して

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学教育学部附属中学校
	公開日: 2020-06-02
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 中村, 謙太, 玉城, 健一, 比嘉, 利博, 里井, 洋一, 白尾, 裕志
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45988

《社会科》

深い学びを実現するための思考力の育成

―社会的な見方・考え方を深めることを通して―

中村謙太*　玉城健一*　比嘉利博*　里井洋一**　白尾裕志**
*琉球大学教育学部附属中学校　**琉球大学教育学部

Ⅰ　主題設定の理由

1　社会的背景

現代社会はグローバル化が進展している反面、格差が拡大し、資源の争奪戦や領土問題、宗教問題などから偏狭なナショナリズムも台頭している。こうした問題を解決しながら持続可能な社会をつくるためには、誰かが答えを出してくれるのを待つのではなく、市民一人一人が考えや知識、知恵を持ち寄り主体的に答えを作り出すことが求められる(1)。そのためには、知識をつなぎ合わせてより深く理解したり、情報を精査してそれをもとに自分の考えを持ったり、社会的事象から問題を見いだして解決策を考えたり創造したりするような「深い学び」が、これからの社会科においても求められている。

2　これまでの研究・生徒の実態

本校は平成 27 度までの 3 年間、知識構成型ジグソー法を基盤とした協調学習に取り組んできた(2)。社会科では発展課題を設定することで、課題に対しての自らの考えを吟味したり、再構成している場面から思考が深まっている様子が見られた。また、社会科が苦手な生徒も意欲的に対話し、自分の意見を認めてもらう様子も見られた。主体的で活発な対話が見られた反面、主に次のような課題があげられた。

- 考える課題を、単元を通して作成し、知識構成型ジグソー法を取り込んでいく必要がある。
- 社会的な見方・考え方を深めるためには、生徒がいかに思考できたかに関わってくる。生徒の思考を深めさせることを念頭に置き実践を行なう。

また、普段の社会科の授業での生徒の様子から生徒の実態を検討したところ、全学年に共通して次のような課題が見えてきた。

- 課題について自分の考えをまとめることはできるが、それを他者に説明することが苦手な生徒がいる。
- 他者の意見を十分に吟味せずに取り入れたり、取り入れなかったりする場面がある。
- 自分の考えに固執し、掘り下げて考えることが不十分で、なかなか考えが深まらない生徒がいる。

これらの課題に向き合い、改善を図るためには、「深い学び」の実現が不可欠であると考えた。そこで、昨年度から本校が取り組んでいる「21 世紀型思考力」を社会科では「深い学びを実現するための思考力」と捉え、それをはぐくむために社会的な見方・考え方を深めることに焦点をあてて研究を進めていくことにした。

Ⅱ　研究の目的

本研究は、社会的な見方・考え方を深めることを通して、社会科における深い学びを実現するための思考力を育成することを目的とする。

Ⅲ　目指す生徒像

本研究では、思考力が育成されている姿を「深く考えることができる生徒」として捉え、「問題発見・解決の中で、社会的な見方・考え方を働かせながら、深く考えることができる生徒」を目指して研究を進めていく。具体的な生徒像を次に示す。

- 学習課題について、多面的・多角的に考察できる生徒。
- 学習したことを様々な立場や意見を踏まえて、選択、判断できる生徒。
- 自分の考えを論理的に説明できる生徒。
- 他者の主張を吟味し、自分の考えを再構成しながら議論できる生徒。

Ⅳ　研究内容

1　社会科における深い学び

深い学びについて、中央教育審議会の答申では「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」学びが実現できているかという、授業改善の視点として説明されている[3]。本校社会科では「課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点で授業実践を行ない、生徒が課題に対して「もっと調べたい」「なぜこうなっているのか？」など、意欲や疑問を持ち続けて授業に取り組む中で、社会的な見方・考え方を使って、自分の考えを持ち、他者との対話や自分の考えたことを振り返ることを通して、人・事・モノから学んだことを、説得力のある形で再構成することで、課題に対してよりよい解決策を探し続けること（深く考える）ことが、深い学びにつながると考える。その学びの「深まり」の鍵となるのが、「見方・考え方」である[4]。

2　社会的な見方・考え方

社会的な見方・考え方とは、課題解決的な学習において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」である[5]。中学校における「社会的な見方・考え方」は、各分野の特質に応じて整理され、新学習指導要領解説でも次のように示された[6]。

「社会的事象の地理的な見方・考え方」
・社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で人間の営みと関連付けて
「社会的事象の歴史的な見方・考え方」
・社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして
「現代社会の見方・考え方」
・社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理念など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて
働かされるもの

加藤(2017) は「社会的な見方・考え方を働かせる学習とは、（中略）社会をわかるという過程を学習活動として具体化したもの」[7]だとも説明している。また澤井(2017)は、見方・考え方について「子供がもともともっている素朴な『見方・考え方』が働くように、教師が意図的に働かせることを通じて、少しずつ鍛えていく」[8]、「見方・考え方は、教師の意図的な問いの設定や、地図や年表等の資料提示の工夫によって児童が働かせるようになる」[9]、「子供同士の交流によって、多様な『見方・考え方』へと鍛えられていく」[10]などと説明している。加藤や澤井のいう見方・考え方を「働かせ」ながら、さらに澤井のいう見方・考え方が「鍛えられる」ことを、本校社会科では「社会的な見方・考え方を深める」と捉え、研究を進めていく。

3　社会的な見方・考え方と思考力の関係

本研究では、子供が授業の中で、社会的な見方・考え方を用いて社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて複数の立場や意見をふまえて選択・判断することなどを通して、深い学びを実現するための思考力（深く考えること）がはぐくまれていくことを構想している。

4　深く考えるための手立て

研究の初年度は、深く考えるための学習計画（単元構成の工夫）や深く考えるための学習過程を中心に授業実践の試行・省察を繰り返し、模索しながら研究を進めてきた。例えば、単元の学習を主体的にし、単元で学んでほしい社会的な見方・考え方を大きくつかめるようにするために単元の導入で知識構成型ジグソー法を取り入れたり、単元の中核となる発問を工夫し、そこから生徒同士の対話や意見交換、自分の考えを振り返る活動を通して生徒が知識の再構築を行い、課題に対する自分なりの解決策を作り出せるような単元全体を見据えた能動的な学びを志向したりした。1単位時間の授業の中だけではなく、単元や題材のまとまりの中で深い学びの実現を試みようとしたところに関連して、初年度の成果を確認することができた。それをふまえ、今次研究でも次の3つの柱を意識し研究を進めていく。

(1)　深く考えるための学習計画（単元構成の工夫）

単元の学習を、生徒が追究したくなるような問いからはじまり、主体的に課題を追究していくことを通して深く考えていけるような課題解決型の単元構成や教材化の工夫を試みた。その際、各単元において育てたい資質・能力を明確化し、おもに働かせたい「社会的な見方・考え方」を明確にして、生徒が単元の学習を通して自然に「社会的な見方・考え方」を働かせ、深めているような学習課題の設定の工夫を模索した。その際、前次研究の成果である知識構成型ジグソー法による協調学習を、単元学習の中で取り入れ、「社会的な見方・考え方」を深めるために効果的な単元構成についても検討した。

(2)　深く考えるための学習過程

深く考えるためには、「社会的な見方・考え方」を働かせることで個々の既有知識をつなぎ、再構成することが有効ではないかと考え、その実践を試みた。また、授業の中で生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせ、深められるような資料提示の工夫を試みた。さらに、生徒同士の交流や意見交換、相互評価などの対話場面を設定することで、生徒同士の多様な見方から、「社会的な見方・考え方」を深めていくことを模索した。

(3)　深く考えた過程や結果をみとる学習評価

1 枚の振り返りシートに単元の各学習場面で、生徒が考えたことや疑問に思ったこと、あるいは単元を貫く学習課題に対する考えを記述させることを通して、自分の学びを実感しながら学習を進めたり、自らの学びの変容を意識させメタ認知を鍛えたりすることで深く考えていけるよう、毎時間の学習の振り返りの場面を工夫した(図 1)。

本研究の構想をまとめたものが、図 2 である。

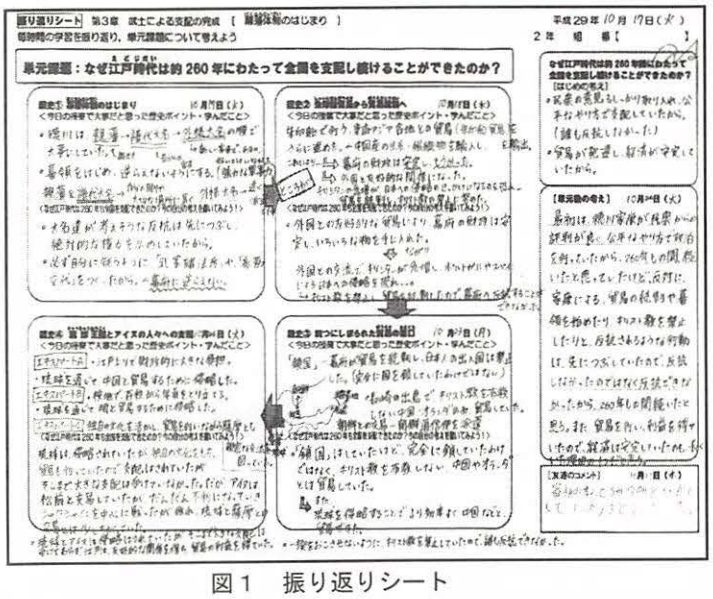

図 1　振り返りシート

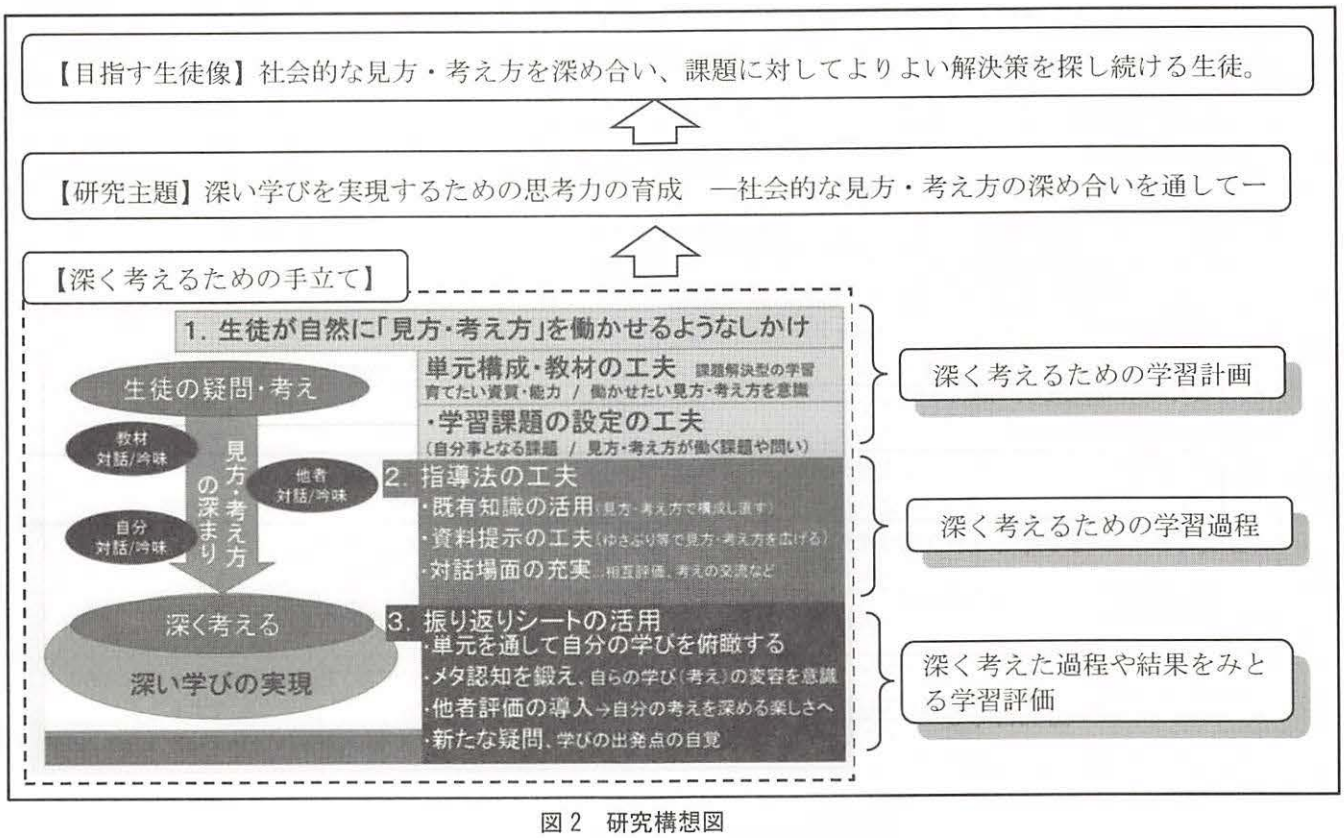

図 2　研究構想図

V　授業実践

1　1学年実践事例【地理的分野】

世界の諸地域　「アジア州」

(1)　主題

「これからアジア州は発展していくのか？」

(2)　単元で育成したい資質・能力

統計資料や主題図などの資料からアジア州が急速に発展した理由を考え、説明する力。

(3)　実践の概要

本単元は次期学習指導要領では2内容、B世界の様々な地域、(2)世界の諸地域となり、単元を通して、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通してア及びイの事項を身に付けることができるように指導するとされている。アジア州では「これからアジア州は発展するのか？」を主題として、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的･多角的に考察し、表現することを目的としている。

そこで、本実践の目的を達成するために以下ことを意識して単元計画を作成した（図３）。

一つめは学習した内容から主題について生徒が主体的に考えることができるように発問を設定した。本時の学習課題を考える事で、主題をさまざまな視点から考えることができると考えた。

二つめは単元の中に知識構成型ジグソー法を取り入れ、社会的な見方・考え方を深めるための単元構成を考えた。知識構成型ジグソー法による授業（本時）では学習課題を「なぜ東南アジアは経済発展しているのか考えよう」と設定し、3つのエキスパート資料から考えた。

エキスパートA「資源とおもな工業から考えよう」
・各国の資源や工業の様子から学習課題について考える。

エキスパートB「日本企業の進出から考えよう」
・日本企業の進出した国を確認し、進出した条件から学習課題を考える。

エキスパートC「輸出品目の変化から考えよう」
・各国の輸出品目から学習課題について考える。

ジグソー活動、クロストークで考えを共有して、個人の考えをまとめる。エキスパート資料が本時で身に付けさせたい地理的な見方・考え方で、これをもとに本時の後半で課題「これからアジア州の中で、どの国が経済発展すると思うか？」を考えた。

三つめは、一枚の振り返りシートを作成し、今日の授業でわかったことやまとめ、疑問を書き、主題について考えたことを記録していく。そして単元の最後にはこれまでの学習を振り返り、自分の考えを自分の言葉でまとめていく。更に、自分でまとめた振り返りシートを友だち同士で交換して自分の考えと比較し、友だちからコメントをもらうことで新たな視点や考えを取り入れるヒントになると考えた。

主題「これからアジア州は発展していくのか？」　7時間配当　本時第3時

		学習内容	思考を誘う発問	育てたい思考力
導入	1	アジア州の自然環境と経済発展	「経済が発展するとは？」統計資料から考えよう	自然環境、人口密度との関わりから「発展」について多面的・多角的に考察する。
追究	2	アジア州の農業について	「稲作・小麦・羊の放牧に適した場所はどこだろう？」	自然条件（降水量や地形）から多様な農業について考察する。
	本時	自立の道を歩む東南アジア	「なぜ東南アジアは経済発展しているのか考えよう」	積極的な工業化の推進の変化から経済発展について多面的・多角的に考察する。
	4	経済発展を急速にとげた中国	「中国は経済発展によってどのように変わったのか？」	沿岸部の経済発展に着目して急速な発展はどのような影響があるのか考察する。
	5	産業の発展が急速に進む南アジア	「インドの可能性を考えよう」	言語や賃金、人口に着目して、工業や経済発展の背景を考察する。
	6	資源が豊富な西アジア・中央アジア	「西アジア・中央アジアの経済成長を支えているのは？」	資源や貿易の輸出の利益に着目して経済成長を支えているものを多面的・多角的に考察する。
まとめ	7	アジア州	「これからアジア州は発展していくのか？」	これまでの学習から「発展」について多面的・多角的に考察する。

図３　「アジア州」単元計画

(4)　実践の考察

①　生徒の学習評価

(ア)本時（第３時）の学習評価

「なぜ東南アジアは経済発展しているのか？」の学習課題について、生徒の授業前とジグソー活動後の変容について次の表にまとめた。(表 1)。

表１　学習課題に対する生徒の変容

生徒A	【授業前】いろいろな国から学んだ。 交通機関が発達して便利になった。 ⇒距離や位置関係から考えようとしているが、具体的な理由が書けない。
	【ジグソー活動後】昔の東南アジアは原油など鉱産資源の輸出品が多かったけど、それを使ってできる機械類が多くなっている。しかも東南アジアは賃金が安く、労働力が豊富で、輸出額も増えていき経済発展していると思う。また日本企業も他の国へ進出していることから他の国とも貿易をしている。 ⇒　エキスパート資料の視点から学習課題を考えることができている。
生徒B	【授業前】交通機関が整った。 日本企業の進出が増えた。 ⇒　日本企業が進出すると、どのような影響があるのか考えていない。
	【ジグソー活動後】東南アジアは資源に恵まれていることから輸出をさかんに行うようになり、それで得た貿易での利益も発展に影響している。また交通を整備したことで、電気機械、自動車工場を誘致し、日本企業などの工場で現地の人々が社員として働いている。 ⇒　エキスパート資料の視点と外国の企業を誘致するとどのような影響があるのか具体的に書くことができた。

授業前では何が経済発展なのか漠然としたイメージや既習事項やテレビなどから得た情報を基に考える生徒が多かった。しかし、ジグソー活動後は経済発展するために必要な条件を資源、労働力、地理的な位置など具体的に結び付けて考えることができるようになった。

(イ)単元の学習評価

単元を通して一枚の振り返りシートから「これからアジア州は発展していくのか？」について単元学習前の考え、毎時間の振り返りからの考え、単元学習後の考えの変容から生徒の学びを考察した (表 2)

表２　単元の振り返りに対する生徒の変容

生徒C	単元学習前の考え	「発展していく」アジア州との結びつきが他の国とで強くなっている。いろいろな関わりがあるので、発展していくのではないのか考えます。
	第２時 自然環境と農業	「発展していく」アジア州でたくさんの作物を育てているからです。気候（降水量や気温）の違いにも注目できたので良かったです。
	第３時 発展	「発展していくと思う」人口、賃金、貿易（設備など）
	第４時 経済成長	中国は人口も多く、沿岸部に経済特区をつくり、工業化も進んでいるのでアジア州も発展していくと思う。
	第５時 南アジア	インドは急成長する ICT 関連産業などがあるので、発展の可能性が考えられる。
	第６時 資源と発展	各地域で恵まれるものによって開発は変わってくることに気付いた。西アジア、中央アジア発展していくと考えられる。
	単元学習後の考え	これまでの学習からアジア州は発展して行くと思う。アジア州は他の国との結びつきが強いうえに、作物がよく育つ気候だからです。また東南アジアは賃金が安く、日本から遠すぎず企業が進出しているし、西アジア、中央アジアは資源に恵まれ開発が進んでいる。南アジアは ICT による急成長が進んでいるなど、アジア州全体をみても発展しているといえるから。

毎時間の授業でわかったことや大切だと思ったことからそれぞれのアジア地域の特色をつかみ「これからアジア州は発展していくのか」考えている様子が見られた。単元学習前は「いろいろな関わりがある」などオセアニア州で学習したことを基に考えているが具体的に書くことができなかった。しかし、単元を進めていくうちに、農業では自然環境の影響、工業の発展では賃金や労働力、設備などが関係している事、発展を支えているものは、資源や ICT 関連産業などもあるなど、さまざまな視点から主題を考えている様子がうかがえる。単元学習後の考えでは今までの学習を振り返り、自分の言葉でまとめて、これからも発展していくと判断している。

(5)　実践のまとめ

生徒の振り返りシートから考察すると、単元を通して主題を考える時に必要な「社会的な見方・考え方」を鍛えるために、毎時間の授業に身に付けてほしい地理的な視点、学習課題を設定する必要があると思われる。また、振り返りシートを試行錯誤しながら生徒の学びの様子、変容、まとめをしっかりみとり、評価できるような改善をこれからも続け、次年度につなげていきたい。

V　実践事例

2　2学年実践事例【歴史的分野】

武家政権の展開と世界の動き「天下泰平の世の中」

(1) 主題

「江戸時代は本当に『天下泰平の世』といえるのか」

(2) 単元で育成したい資質・能力

歴史的な見方・考え方を働かせて、近世日本の社会のようすについて多面的・多角的に考察する力

(3) 実践の概要

本単元は、「近世日本の産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する」とともに、「近世の社会のようすを多面的・多角的に考察し、表現する」(新学習指導要領) ことをねらいとしている。そこで本単元では、単元全体の課題を「江戸時代は本当に『天下泰平の世の中』といえるのか」と設定し、課題を追究し解決していく活動を取り入れた。課題追究の過程で、生徒たちが毎時間ごとに「歴史的な見方・考え方」を働かせ、深められるような工夫 (毎時間の発問や問い、教材の工夫、指導法の工夫など) をおこなうことで、近世日本の社会のようすを多面的・多角的に考察する力を養うことを意図した (図4)。

例えば4時間構成の2時間目にあたる本時では、当時、薩摩藩の侵略を受けながらも主体性を持って日本や中国との貿易を繰り広げていた琉球王国のネットワークと関連させた「昆布ロード」を取り上げた。生徒たちの身近にある食材である昆布について、「昆布がとれない沖縄で、昆布を使った料理が多いのはなぜだろうか」という生徒の疑問を基に学習課題を設定し、日本の北の端から南の琉球、中国にいたる「豊かな物流」の視点から近世日本社会のようすを多面的・多角的に考察できるように工夫した。また本時では知識構成型ジグソー法を活用し、他者の考えや他の視点の大切さを感じ、自己の考えを広げ深めていけるような対話的な学びの場面を設定した。対話を通して他者の意見に触れたり、新たな情報や視点に触れることで課題に対する「見方・考え方」を深め、深く考えていくことを意図した (表3)。

表3　第2時の授業 (知識構成型ジグソー法) の概要

メインの問い
「昆布がとれない沖縄で、昆布を使った料理が多いのはなぜ？」(昆布の生産地は90%以上が北海道の資料提示)
エキスパート資料の内容
エキスパートA (交通の整備) ・水上交通の発展、東廻り航路・西廻り航路 (主題図) など エキスパートB (昆布の消費地と昆布の利用法) ・都道府県別の昆布の消費量 (分布図と推移) など エキスパートC (富山の薬売りと中国を結びつけるもの) ・富山の薬売り、薩摩の商人、中国の商人の思い　など
ジグソー活動
各エキスパート1人ずつの計小3名で構成するグループで、各エキスパートの内容を伝え合い、メインの問いについて話し合う。
クロストーク・振り返り
各グループの考えを全体で共有する。 振り返り…今日の学びから学習課題に対する自分の考えを記入

また単元を通して1枚のワークシートに自分の考えをまとめさせる (ポートフォリオ) 振り返りの場面を設定した。単元の課題「江戸時代は本当に『天下泰平の世の中』といえるのか」に対する毎時間ごとの自分の考えを意識的に振り返ることにつながり、毎時間ごとの自らの学びをつなぎ合わせ、自らの考えを説得力のある形で再構成していくような深い学びを実現できるよう支援した。

主題「江戸時代は本当に『天下泰平の世の中』と言えるのか？」　4時間配当 本時第2時

		学習内容	思考を誘う発問	育てたい思考力
追究	第1時	身分制社会での暮らし	○「身分制社会は、誰にとって都合が良い社会だっただろうか？」	身分制社会のもとでの江戸時代の人々の暮らしから、近世日本社会を多面的・多角的に考察する。
	第2時 本時	各地を結ぶ陸の道・海の道	○「昆布がとれない沖縄で、昆布を使った料理が多いのはなぜだろうか？」	交通網の発達や物流の広がりに着目して、近世日本社会を多面的・多角的に考察する。
	第3時	安定する社会と諸産業の発達	○「江戸時代の産業はどのように発達していったのだろうか？」	産業の発達と文化の担い手の変化などに注目して、近世日本の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察する。
	第4時	上方で栄えた町人の元禄文化	○「元禄文化は、どのような特色をもった文化だっただろうか？」	

図4　「天下泰平の世の中」の単元計画

(4) 実践の考察

① 生徒の学習の評価

次の２つの場面から生徒の学習を考察したい。

（ア）１時間の授業で「見方・考え方」が働く場面

単元の第２時「昆布がとれない沖縄で、昆布を使った料理が多いのはなぜだろうか」の授業における生徒の学習前と学習後の記述の変容を比較し、１時間の授業の中で、「見方・考え方」がどのような形で働いているか（みられるか）を考察した（表4）。

表４　問いに対する生徒個人の変容

生徒A	［授業前］昔、たくさん貿易していたからだと思う。
	［授業後］日本中の交通がしだいに整い、日本中に物がいきわたるようになった。日本から琉球へは海産物が多く、その中に昆布もあった。富山の薬売りは中国の漢方薬が欲しくて、中国は昆布が欲しかった。琉球を通じて中国には昆布、富山には漢方薬が行き渡った。昆布の中継地点では、昆布の料理が広がったので琉球でも昆布が広がったと考えられる。それが沖縄料理にもあり、今につながっている。 【分析】交通網の整備が、昆布の流通の背景にあることを理解しているようすがわかる（下線部）。
生徒B	［授業前］北海道の昆布が、北海道と貿易しているところに渡って、そこから中国に渡って、中国から沖縄に入ってきたと思う。
	［授業後］富山藩は薬をつくるために中国産の漢方薬がどうしても欲しい。中国は病気予防のための昆布がどうしても欲しい。でも中国とは琉球と長崎でしか貿易ができない。なので、富山の北前船で北海道の蝦夷地から昆布をもらって、それを薩摩に渡し、薩摩から琉球に渡り、琉球から中国に輸出され、中国から得た漢方薬を富山に渡した。琉球を通じて昆布のやりとりをしていたので、琉球でも昆布が消費されるようになった。 【分析】当時の鎖国の状況をふまえ、日本周辺の物流の全体像をとらえつつあることがわかる（下線部）。

生徒Ａと生徒Ｂの授業後の記述には、交通網の整備が昆布の流通の背景にあることや、当時の日本周辺の物流の全体像をとらえるような記述がみられ、「豊かな物流」の視点の獲得がなされているようすがわかる。さらにこの二人が授業後に記述した「江戸時代は本当に『天下泰平の世の中』といえるのか」についての振り返りが表５である。

表５　第２時終了後の単元の問いに対する記述

生徒A	日本全土に物が行き渡れるようになってきているということは、しっかり安定した社会だからできるのできることで、天下泰平と言ってよいと思う。 【分析】豊かな物流の視点から近世日本を「しっかり安定した社会」ととらえているようすがわかる（下線部）。
生徒B	交通網が発達して、物流が良くなったと思うので、いろんなものや自分たちの地域にはないものが食べられるようになり「幸せ」だったと思う。 【分析】豊かな物流の視点から近世日本を「自分たちの地域にはないものが食べられるようになった社会」と表現。

生徒Ａも生徒Ｂも豊かな物流の視点から近世日本社会を自分なりにとらえ、表現していることがわかる。

（イ）単元を通して「見方・考え方」を深める場面

単元を通して１枚のワークシートに自分の考えをまとめさせる（ポートフォリオ）振り返りの場面で、単元の課題「江戸時代は本当に『天下泰平の世の中』といえるのか」に対する毎時間ごとの自分の考えの記述の変化から、どのように毎時間ごとの自らの学びをつなぎ合わせ、自らの考えを説得力のある形で再構成しているのかを考察した（表6）。

表６　単元を通しての振り返りシートへの記述の変容

生徒C	単元学習前の考え	平和に見えるかもしれないけど実は違ってて人々が幕府にしばられており、人々が自由にできないから作られた平和だった。
	第１時 身分制社会	支配者にとってだけ都合のいい社会だと思いました。人々にとって楽しいと思えないはずだから縛られた平和なのだと思いました。
	第２時 陸/海の道	中国から漢方を取りよせるために琉球を通してもらうなど協力があるので良いと思いました。
	第３時 諸産業の発達	土地を深く耕すことのできる農具の開発によって耕地面積とともに米の生産量が飛躍的に増え、次第に人々の生活が安定してきたのは良い。
	第４時 元禄文化	町人が経済的に富を蓄えられて元禄文化ができるなど人々にも余裕がでてきたのはとてもいい。また、生類憐れみの令を出し人々の命の見方も変わり、良い影響になったと思いました。
	単元後の考え	最初は身分制社会で人々はしばられて楽しみのない人生を歩んでいるのであろうと思っていました。でも次第に町人が富をためたり、百姓は農具を進化させるなど人々の生活が安定して、余裕ができ、新しい文化が生み出されたことは、天下泰平だと思いました。

生徒Ｃは「支配者にとってだけ都合の良い」「縛られた平和」「農具の開発によって」「人々の生活が安定してきた」「富を蓄え」「人々の命の見方も変わり」など、それぞれの授業で働かせた「見方・考え方」から考えたことをつなぎ合わせ、単元後の考えをまとめ、表現しているようすがわかる。単元前からの変容についても自ら言及し、近世日本を「天下泰平」だと結論づけているようすがうかがえる。

(5) 実践のまとめ

生徒の学習における記述から、生徒が「見方・考え方」を働かせたり深めたりする中で自分の考えを導きだし、表現しているようすを確認することができた。また単元全体を通して「見方・考え方」をとらえることで、生徒が自分の学びを俯瞰し、深く考えているようすも確認することができた。一方で、自分が考えたことをより説得力のある形で説明するには十分でない生徒もいた。表現することに苦手意識があり、記述できない生徒への評価と支援の在り方が引き続き課題として残った。

3　3学年実践事例【公民的分野】

私たちの生活と経済「消費生活と経済のしくみ」

(1)　主題

「売る側は商品の価格を、どのように決めているか」

(2)　単元で育成したい資質・能力

現代社会の見方・考え方を活用することで考察・構想する力を培う。

(3)　実践の概要

本単元は、次期学習指導要領解説では内容Bの(1)であり、そのため単元を通し消費者主権の視点を生徒に意識させ授業を行った。現代社会の見方・考え方に「対立と合意」、「効率と公正」がある。市場価格の「需要と供給」は「対立と合意」と類似し、その決定は販売側の経費や消費者ニーズを踏まえるため「効率と公正」にも該当する。生徒は既習で市場価格が「需要と供給」で決まると理論上は理解したが、実生活では販売側（供給）と消費側（需要）の関係が不明瞭のため、多くの生徒が販売側の意図で価格が決定していると予想している。本時では、実生活での価格決定に消費者の視点を意識させることで、生徒は市場価格での「需要と供給」の関係を再認識し、実生活と理論がつながり、市場価格の理解が深められると考える。本時は、知識構成型ジグソー法で実施する。ジグソー法は資料の読み取りや関連づけ、話し合いや発表活動が含まれ生徒はその過程で課題解決に向け考察や構想し、深い理解につながる。本時は、身近な社会的事象から学習課題を設定し、エキスパート活動(資料の読み取り)で、既有知識を使い、各問いを考え、販売側及び消費側の視点につなげる。その後のジグソー活動では、その活動で得た知識をもとに話し合い、クロストークを行う。生徒は、これらの学びの過程で自らの考えを再構築し、深い理解につながり、深い学びとなる。

表⑦　学習課題に対する生徒の予想　n=37

No.	予想	人数	分析
1	**売り側の視点を言む** ・均衡価格より高く　・原価より高く　・他の店と比較して ・10%の利益が出るように・できるだけ高くしようとしている ・**元の値段から値上げして決める（A）**　など	23	・小売店は価格が提示 ・販売側が自らの利益のみを目的に価格を設定。
2	**消費者の視点を言む** ・戴回、お客さんに売れたか　・買う側が考えてくれそうな価格(お手頃価格) ・人気があるかどうか ・**お客さんが買ってくれそうなるべく高い値段(B)**	6	これまでの学習の得た知識として、消費者主権があり、その視点を踏まえた予想
3	**1と2の視点を言み** ・消費者がこの価格で買ってくれ利益が出るか　・**利益が出て消費者が購入するか(C)**	2	予想の記述に市場価格との関連性や、具体的な記述もない
4	**その他** ・メーカー希望価格　・とりあえず　・商品の産地や安全　・**需要と供給（D）**　など	6	

(4)　実践の考察

①　主体的な活動を促す学習課題の設定

本時導入で市販ペットボトルのお茶の価格に対する生徒の疑問から学習課題を「売る側は商品の価格を、どのように決めているか」と設定した。

表⑦は学習課題に対する生徒の予想の分類である。

小売店では価格が既に表示されているため、生徒は販売側が自らの利益のみを目的に価格設定している等と販売側の視点から答えが多くなったと考える。

②　思考を促す資料の提示

3つのエキスパート資料を作成し、それぞれに個別の問いを示し、資料を読みとる視点とした(図⑤)。

エキスパート(A)は、生徒が企業のアンケート結果（グラフ）から消費者の一般的なニーズを考察することで、企業のアンケート実施が価格決定に反映させることにあることを理解する。エキスパート(B)は、生徒が本校周辺のコンビニとスーパーの分布図と3学年生徒に実施したコンビニとスーパーに関するアンケート結果からコンビニの販売戦略を考察し、小売業の消費者を意識した販売戦略を理解する。エキスパート(C)は、生徒が商品価格の内訳から価格を引き下げられそうな項目を販売側の視点で考察することで、価格の引き下げには限界があり、販売する際には、それ以外の努力が必要性を理解する。これらの資料の提示によって、「需要と供給」の視点が定まり、その視点を活用する事で学習課題の考察・構想につながる。

資料	内容(エキスパート資料)	個別の問(資料を読み取る視点)	
A	企業の消費者アンケート	企業の行うアンケートから何がわかる？	消費側（需要）
B	スーパーとコンビニの価格の違い	価格の高いコンビニで、なぜ買い物をするのか？	消費側（需要）
C	商品の価格の内訳	商品を売るために、価格を下げすぎると、売る側はどうなる？	販売側（供給）

図⑤　資料を読み取る視点

③　思考の変容

生徒の思考の変容を見るため、学習課題の予想で分類し、その中から無作為に4人を選び分析した(図⑥)。図中A～Dは、表⑦の生徒である。生徒Aは、予想では販売側の視点である。担当のエキスパート資料(A)の考察を見ると、問い(資料を考察する視点)が理解できていないため、資料の考察が不十分である。グループの他者の担当をまとめた記述からも理解していないことがわかる。しかし、グループのま

とめでは、言葉足らずではあるが消費側の視点で表現されている。話し合いでの意見交換で学習課題に対する理解が深まったと考えられ、最後の個人のまとめでは、販売側と消費側の視点で記入されていることから、さらに深まった内容といえる。結果、生徒Aは資料の読み取りは当初は不十分ではあったが、ジグソー活動やクロストークで他者の意見から自分の資料を再考察し、考えを深めていったことがわかる。生徒Bの予想は、販売側が消費者を意識した視点となっている。担当のエキスパート(A)のまとめは、予想と同じ視点で、より具体的に記述している。また、グループの他者の担当のものをまとめたものには、自分なりの視点も加筆するなど工夫が見られた。さらに、グループのまとめでは販売側の視点が加えられたため、最後の個人まとめでは販売側と消費側の関係が具体的に記され、両方の視点で構想することができている。生徒Cは予想で販売側と消費側の視点がすでに含まれている。自らのエキスパート(A)の考察では、企業が消費者のニーズを理解することが自分の利益につながることまでも記述している。そのため、他者のもののまとめと関連づけたり、話し合い活動を行ったりすることで、最終の個人のまとめが予想より具体的に構想され、その記述から理解が深まったことがわかる。生徒Dの予想は、前時の知識を単に記載されているのみで、実生活との関係は記述されていない。しかし、自らのエキスパート資料(A)は消費者のニーズを踏まえた販売側の視点で考察しており、グループの他者のまとめを記述したものは、消費者ニーズを意識した販売側の努力が記述された。そのため話し合い活動等を踏まえた個人のまとめは「需要と供給」の関係が具体的に構想されており、その理解に深まりが見られた。

(4) まとめ

表⑥　平成28年度と平成29年度の生徒アンケート比較(%)

調査項目　11月初旬実施 A:H28年度 N=138) B:H29年度 N=148)	あてはまる			少しあてはまる			あまり当てはまらない			あてはまらない		
	A	B	差(B-A)	A	B	差(B-A)	A	B	差(B-A)	A	B	差(B-A)
1.写真などの各資料を関連付けて考えることができる。	38.4	43.8	5.4	33.3	45.9	12.6	23.9	9.6	-14.3	4.3	0.7	-3.7
2.話し合いの時、自分の意見を言うことができる。	53.6	53.4	-0.2	26.8	36.3	9.5	3.8	9.6	-4.2	5.8	0.7	-5.1
3.話し合い活動で、友達の意見で自分の考えがまとまることがある。	54.3	54.8	0.4	36.2	40.4	4.2	4.3	4.8	0.4	5.1	0.0	-5.1

表⑥の項目①で「当てはまる」、「少しあてはまる」を合わせて89.7%と前年度と比較で18%も上昇した。また、表⑨の3からも、販売側と消費側の両方の視点でまとめた生徒が28人おり、その記述から実生活の価格決定について、需要と供給の関係を具体的に理解できたといえる。これは、エキスパート資料（A）・（B）で消費者の視点を活用させるための問いを設定し、販売側と消費者側の明確な視点を持たすことで、資料の読み取りや関連づけが的確に行われ、生徒の学習課題を解決するための考察・構想となり、それが生徒の深い学びにつながったのである。表⑧の項目②、項目③の「あてはまらない」の割合が本年度は、ほぼゼロとなった。これは、他者の意見を取り込み、自分の考えを再構築できるようになったためと考えられ、表8の内容が予想より深い内容であることからもいえる。

表⑨　学習課題に対する個人のまとめ　n=37

No.	まとめ（主なもの）	人数
1	売り側の視点を含む ・売れて利益が出るように売っている。コンビニは売れるから高くしている。　・売る側は価格を黒字の範囲	2
2	消費者の視点を含む ・消費者が何を求めているか「需要」が大切だと思った。需要が高いほど価格を上げることができると思う。 ・商品は、店側の利益も考えるけど、お客さんが買いたいと思うようなものを作ったり、売ったりしないといけないからお客さん重視になると思おう	6
3	**1と2の視点を含み** ・商品の値段は、買う側の支出や希望に合わせてたり、売る側の利益も得られるようにしている。 ・お客さんが求めている商品を売って、多くの人が買ってくれて利益が出るように価格を決めている。 ・売る側は商品の価格を自分たちにも消費者にも納得いくように工夫している。　など	28
4	その他　・便利さで決めている	1

以上から、社会的見方・考え方を活用し、考察・構想することで思考力が育成され、その過程で深い学びが実現できる。しかし、生徒の思考がどのような外的要素を受け、どのような過程で変容したかを分析することが不十分であり今後の課題といえる。

生徒	学習課題の予想（考察の視点）	担当エキスパートのまとめ 他のエキスパートに対する自分なりのまとめ		グループのまとめ「売る側は価格を～決めている」	個人のまとめ
A	**元の値段から値上げして決める。**	A：多くの人にお弁当を買ってもらうため		買いに来る客によって	お店で売る商品の値段は、お店が売れる最低価格を守りつつ客の意見も聞き、商品をより多く売れるようにしている。
		B：（なぜ価格が高いコンビニで買う人がいるか）→ほしいものを理解している（店）	B：（価格を下げるとどうなるか）→質が悪いと思いこんで買わない。一本の価格＝この商品にかかった費用		
B	**前回、お客さんに売れたか、売れなかったか**	B：コンビニの価格は、コンビニの数がいっぱいあるから近いし、すぐ買えるし、24時間オープンしているので便利だから買う人もいっぱいいると思うので、値段を高くしても大丈夫だと思って高くしていると思う。		利益と売れる個数で	売れる側は、商品の価格を利益とお客さんの意見、売れる個数で決めていると思います。
		A:弁当についてのアンケートを採ることでどの弁当が一番売れているかを知り新しい商品を開発できる。	C:ペットボトル1本にかかる人件費を削ればデスカウントスーパーAみたいに大量に安く売れる		
C	**利益が出て、消費者が購入するかで**	A：消費者の要望を商品に反映させ、利益を上げている。		アンケートを実施して、お客さんの意見を取り入れて	消費者の意見を取り入れつつ、店の利益などを考えて決めている。
		B値段より、急いでいるとき、便利さを優先	C：値段をやすくしすぎて、品質が下がると売れない。		
D	**需要と供給で決めている**	A：消費者が好む物をなるべく好む値段で売れるようにするため。企業の損失を減らすため		企業の損失を減らし、消費者の意見を取り入れて	消費者アンケートの結果（需要）と企業の損失と利益（供給）を考えて商品の値段を決めている。
		B：コンビニの方が多い(コンビニの方が価格が高い)→理由：近場で人が沢山いる。気軽に入ってもらう。おまけ	C：価格を下げるために・・少しいらないと思う物は減らそう。だけど、質を落としてはいけない		

図⑥　生徒の思考の変容

Ⅵ　成果と課題（次年度への展望）

1　成果

・単元の学習や1時間の授業の中で、生徒が自然に「社会的な見方・考え方」を働かせて、深めていけるよう単元構成や学習課題の設定を工夫することで、主体的に課題に向き合い、「見方・考え方」を働かせながら課題を追究し、自分の考えを導き出しているようすを確認することができた。

・生徒同士の交流や意見交換、相互評価などの対話場面を設定することで、生徒同士の多様な見方から「社会的な見方・考え方」を深め、自分の意見を再構成していく姿が多く見られた。

・1 枚の振り返りシートを通して自分の学びを実感しながら学習を進めることで、これまでの自分の学びを俯瞰し、つなぎ合わせることで深く考えるようすが多く見られるようになった。

2　課題と次年度への展望

・「社会的な見方・考え方」を働かせて考えているが、それをつなぎ合わせて考えたり、他者に説明することや自分の考えを再構成することが十分でないなど、思考し表現することが苦手な生徒に対して、どのように評価し支援していくとさらに深い学びへつなげていけるのかを、より具体的に検証していく必要がある。

・資質・能力が身につき、何ができるようになったかを念頭に、生徒の深い学びに向かう思考力を「1枚振り返りシート」の改良や、多様な活動に取り組ませる中で評価していくなど、多面的な評価の実践研究を進めていきたい。

引用文献・参考文献

(1)国立教育政策研究所『資質・能力　理論編』東洋館出版社、2016 年、p. 12

(2)琉球大学教育学部附属中学校「研究紀要」第 28 集　2015 年

(3) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月 21 日

(4) 澤井陽介、加藤寿朗『見方・考え方［社会科編］』東洋館出版社、2017 年、p. 18

(5) 「社会的な見方や考え方と思考力、判断力、表現力等」イメージ　平成 28 年 4 月 27 日　教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ資料 7

(6) 文部科学省「中学校学習指導要領解説　社会編」、平成 29 年 6 月

(7)前掲（4）p. 41

(8) 澤井陽介『授業の見方「主体的・対話的で深い学びの」授業改善』東洋館出版社、2017 年、p 46

(9)前掲（4）p. 26

(10)前掲（4）p. 27

(11)新教育課程実践研究会『よくわかる中教審「学習指導要領」答申のポイント』教育開発研究所、2017 年

(12)髙木展郎『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは』東洋館出版社、2016 年

(13)三宅なほみ、東京大学 CoREF、河合塾編『協調学習とは』北大路書房、2016 年

(14)石井英真『今求められる学力と学びとは』日本標準、2015 年